

第38回日本画像医学学会

ランチョンセミナー9

2018年1月4日、東芝メディカルシステムズ株式会社は「キヤノンメディカルシステムズ株式会社」に社名変更いたしました。

日時 **2019年 3月 9日 (土) 12:00~13:00**

会場 **ステーションカンファレンス東京 5階 第4会場 (503CD)**
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12

座長 **市川 智章** 先生
埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科

演者1 **岡部 貴浩**
キヤノンメディカルシステムズ株式会社 CT営業部

「超高精細CT Aquilion Precisionのご紹介」

演者2 **曾我 茂義** 先生
防衛医科大学校 放射線医学講座

「超高精細CT 腹部画像診断にもたらす効果」

〈ランチョンセミナー〉

超高精細CT Aquilion Precisionのご紹介

岡部 貴浩

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 CT営業部

超高精細CT Aquilion Precisionは、世界初となる面内空間分解能0.15mmと最小スライス厚0.25mmを有し、従来型臨床用CTでは得られない高精細撮影ができる160列マルチスライスCT装置である。

従来に比べ面内・体軸方向にそれぞれ2倍の空間分解能を得ることを目指し、必要とされる性能から、X線検出器、X線管、寝台、データ処理ユニットなどの各コンポーネント仕様を見直した。設計技術のみならず製造技術まで含めた開発を行うことで、従来には無い高精度な撮影が実施できる。また、2018年に世界に先がけてDeep Learning技術を応用した再構成法AiCE (Advanced Intelligent Clear-IQ Engine)を搭載することで、更なる画質向上が可能となった。

本講演では、超高精細CTとその技術を中心に述べる。

超高精細CT 腹部画像診断にもたらす効果

曾我 茂義 先生

防衛医科大学校 放射線医学講座

この30年の間にCTはより速く、より広く撮影できるという意味で著しい進歩を遂げてきた。しかし空間分解能の向上という点においては、長らく大きな進歩がみられていないという現状がある。

超高精細CTは、そのような背景の中で空間分解能の向上により、微細構造の可視化と診断能の向上を目指した装置である。当院では2018年4月より世界で16台目となる超高精細CT (Aquilion Precision) が稼働しており、主に腹部領域で超高精細イメージングを活用した検査を多くおこなっている。

本講演では、肝胆膵領域、泌尿器領域や血管系の画像診断、並びにIVRを始めとした治療に対して超高精細CTがもたらすインパクトについて、従来型CTや血管造影との比較画像も提示しつつ述べてたい。